case 14

平成26年度　採択事業

# 京式登り窯と若手職人共同作業場による京焼・清水焼の活性化事業

## 京焼炭山協同組合

林（はやし）　淳司（じゅんじ）さん

林　淳司さん

### 京焼炭山協同組合「京焼村」

京都・東山の清水寺門前には、江戸時代から窯元が軒を連ね、そこで作られる焼き物は清水焼きと呼ばれています。昭和 30 年代、窯から出る煙が問題となり、窯は郊外に引っ越します。

昭和 46 年 10 月、10 軒以上の窯が一致協力し、過密化した五条坂、泉涌寺地区をはなれ、宇治の炭山地区に新天地を開拓すべく移転。過去数百年の伝統と卓越した感覚と技術を誇る京焼を、より高度な伝統産業として人々に支持し続けられるよう尽力をしているのが、京焼炭山協同組合「京焼村」です。伝統的工芸品「京焼・清水焼」として通商産業大臣の指定を受け、また排煙処理装置を設置した伝統的な登り窯を昭和 51 年 12 月に完成させています。

京焼は、多用な技法を用いさまざまな種類の焼き物を焼いています。歴史はおよそ 400 年前までさかのぼり、当初は主に茶器が作られ、その後割烹食器等も作るようになりました。貴族や茶人をもてなすための器、嗜好品としてその要望に応えるために様々な種類の器を必要とされた京焼は、日本各地だけでなく中国・朝鮮半島などから意匠・技術を取り入れ、京都の文化の中で洗練されてきました。

京焼村では、優れた色彩とデザイン性・高度な技術を受け継ぐ一方、新しい感覚を取り入れた作品の制作を心がけています。

### 若手陶芸家を育てるために

京焼炭山協同組合（以下、組合）では、最盛期には 11 軒の窯元が所属していましたが、長引く不況や生活様式の西洋化等の影響で、陶磁器の売上げは減少。現在所属する窯元は４軒となり、ご子息等を含み７人の陶芸家が在籍しています。今後も京焼を伝承していくためには、若手陶芸家の活躍が不可欠でありますが、作業場の不足、個々の工房での雇用の限界、技術相談先の不足、個人での販路不足等により、若手陶芸家の継続が難しいのが現状です。この現状を打破すべく、平成 26 年 3 月、廃業した窯元の作業場及び土地を組合で購入し補修、窯及びろくろ等を更新し、若手職人が共同利用できる作業場を整備、運営する取り組みを行いました。共同利用することで、若手陶芸家は、作業場が安価で確保できるほか、組合が持つ既存の販売ルートを活用した作品発表の場の提供も受けることができます。また、定期的な勉強会の開催による組合員の技術的な指導・助言等のサポートや、販路拡大のサポートなどを受けることができます。組合としては、若手陶芸家が京式登り窯の火入れに参加することで炭山地区の活性化を促進させることをはかり、今後は若手との共同新商品開発による商品の幅の拡充と新たな需要の取り込みを展望しています。

組合で購入・整備した共同作業場

電気釜

### 登り窯を後世に伝えていくことが役目

登り窯には、大ゲタ、半ゲタ、クレ等と呼ぶ耐火レンガを用います。ゲタの原料土は伊賀上野の近くで採取したといいますが、今ではほとんど生産していません。築窯の順序は最下部の燃焼室（胴木間）からで、下から上へ７つの焼成室を傾斜に沿って積み上げています。窯の最前方正面には頑丈な木組みがあり、これを鳥居と通称しますが、それは窯焚きによって窯全体が前方へもたれ、倒れてくるのを防ぐための施設です。京焼きの登り窯は、三寸勾配であるといいます。つまり、奥行一尺に対して三寸の高さということであり、床幅が四尺あれば、一尺二寸の高さになります。この勾配の緩さが他の登り窯とは違う、京式の登り窯の特徴の一つであるといいます。焼成室の中にはサヤという耐火粘土製の容器を積み上げ、作品を置きます。勾配の重力による燃焼ガスの対流を利用して、焼成室の各作品を一定の高温に保ち、ムラがなくしっかりと焼き上げられることが優れた特徴です。「登り窯で焼くと、やはり出来がちがいますね。」と林さんは言います。

焼成室

昭和 40 年代、薪を使ったその煙が公害とみなされ、現在は電気窯・ガス窯で焼成を行っており、この登り窯で火入れをしているのは府内唯一です。産業遺産としても価値が高く、この度の取り組みで、窯の歴史と概要および焼成を学ぶ実技訓練を定期的に実施ができ、火入れを行うことができました。実技訓練では、ガス窯は登り窯の焼成原理を元にして開発製造されているため、登り窯を通して薪を燃料に使った焼成を理解し、京都で焼かれてきた登り窯の歴史を振り返ることにより、近代的な焼成との違いや焼成の本質を知ることを目的としました。今後も登り窯の火入れには、実技訓練を実施した陶工高等技術専門校の生徒等も実習に訪れる予定であり、「陶芸の里　炭山」として宇治の観光ルートの一翼を担うこともできると期待しています。

「2015 年にはフランスの展示会で、登り窯京焼展を出展しました。今後は、登り窯を生かした作品づくりや付加価値を見込んだ商品、人間工学に基づいたデザインを取り入れ、使いやすさを追求した茶道具や食器等の展開を、既存の陶芸家と若手陶芸家が共に力を合わせ新ブランドとして立ち上げていくことを目指しています。また、「炭山陶器まつり」等の既存イベントへの共同出店や、登り窯の火入れに合わせた展示販売の開催等を予定しています。」と林さんは語ります。

共同作業場と登り窯が、京焼村から生み出される伝統技術と更なる発展を支えていくことを展望し、活動していきます。

京式登り窯　手前が燃焼室

**事　業　概　要**

**京焼炭山協同組合**

代表：代表理事　小峠　行宏
業種：陶磁器製造
設立：昭和 42 年
住所：〒 601-1395　宇治市炭山西ノ谷 17 番地
TEL：0774-32-2001　FAX：0774-32-2001